

生涯学習だより



郷土に学ぶ『なつ』…ほこれる郷土

年間テーマ

私のまちは80歳 ~かみしほろの現在・過去・未来~

『生涯学習だより』リニューアルしました

昨年で120号の発行を終えた『生涯学習だより』。今年度より、大幅なりニューアルを行いました。

- ・季節感のある情報発信を目指すため、春夏秋冬の季節発行。
- ・年間の特集記事のテーマを決めて、なおかつタイムリーな情報発信。
- ・『かみしほろのホッとな話題』として、より多くの企業や団体、町民の皆さまからの投稿記事を中心とします。

以上のように3本の柱を中心に構成し、皆様からのたくさんの情報を元に発行します。

今年度の情報委員は、斎藤博子（委員長）・大友禮子（副委員長）・乙幡康之の3名です。どうぞ、たくさんのお寄せを頂きますよう、よろしくお願ひいたします。

80周年の節目に当たり ~これから100周年に向かってのスタートとして~

平成23年度が開町80周年となるにあたり、竹中貢町長へ取材してきました。80周年を節目として、このまちがどのように発展してきたのか、そして100周年へ向けて、どう歩んでいくのかを語って下さったので、要約して紹介します。

(取材担当—斎藤博子)

わがまちは、農林業や観光などを産業基盤として、先人の多くの汗と涙によって発展してきた「まち」であり、これからも、豊かな自然の恵みや自然環境・景観の素晴らしさをしっかりと認識して、希望に満ちた100周年に向かって歩み続けることが求められています。

まちづくりで、まず大切なのは、町民の皆さまが安全で安心して暮らせるまちをつくることと考えています。東日本大震災を教訓として、特に施設・設備等の安全対策が求められています。また、福祉・医療・教育環境などの整備を充実させるとともに、町民同士が支え合う関係と、町民と行政の信頼と協働の関係を築くことは、安心をより確かにすることと思っています。

上士幌町民は、厳しさに耐える「がまん強さ」と、一方では、明るく開放的で、先取性の気質をもっているのではないかでしょうか。だからこそ十勝の北に位置し、寒冷・山間の厳しい環境下でも、一步一步あゆみづづけて、今日の「まち」の姿ができたものと思います。

青春とは、「年齢的な若さを言うのではなく、燃えるような情熱や挑戦心を持っている人。夢を失った時に人は老いる」というような意味の詩があります。まちづくりでも同じようなことが言えると思います。上士幌町は今年開町80周年を迎えましたが、わがまちに愛着や誇りを持ち、夢と挑戦する果敢さを持ちつづける限り、若々しく活気のある「まち」でありつづけると思います。



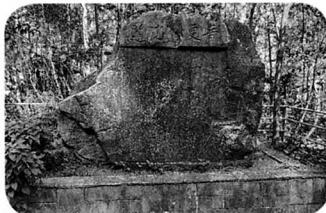
まちの文化財

~80年のあゆみ~

町指定文化財



①丸山噴泉塔群（昭60.8.1指定）



④「音更山道」碑（平9.6.13指定）



⑤清水谷流送遺構（平22.1.25登録）



⑥水神碑（平22.1.25登録）



②三股永久凍土（昭60.8.1指定）



③鳩木遺跡（昭60.8.1指定）



⑪勇川橋梁（平11.8.23登録）



⑫第三音更川橋梁（平11.8.23登録）



道指定文化財

⑦然別オショロコマ生息地（昭43.12.18指定）

郷土資料

全785点



⑦水天宮（平22.1.25登録）

町保存樹木



⑧ヤチダモ 1本（平7.10.30指定）



⑨カシワ 3本（平7.10.30指定）



⑩カシワ 1本（平8.9.27指定）



国登録有形文化財

埋蔵文化財包蔵地

町内74ヶ所



⑬第五音更川橋梁（平11.8.23登録）



⑭十三の沢橋梁（平11.8.23登録）



⑮第六音更川橋梁（平15.1.31登録）

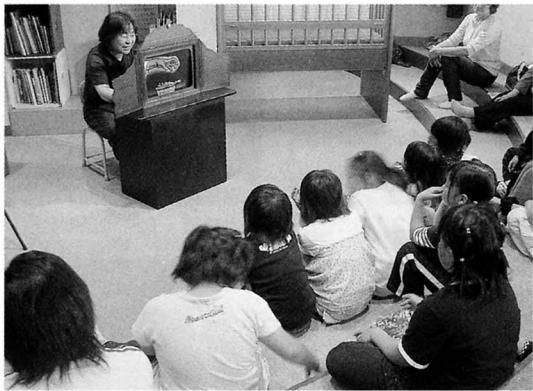


⑯音更トンネル（平15.1.31登録）

すこやかな育ちを願って…

～未来を育む活動紹介～

読み聞かせをおして ……子どもたちは、宝もの



先日、東日本大震災のある避難所で、絵本や紙芝居の読み聞かせをされている女性の方がテレビで放映されていました。目を輝かせている子どもたちや、笑顔で楽しそうに聞きいっているお年寄り、つかの間の癒しの時だったと思います。同じ活動をされているという仲間意識からか、自分のことのように嬉しく思い、敬意を表しました。そして、「我々も、被災地へ出向いて読み聞かせの活動ができたら…」という衝動にかられました。

活動を始めて、27年目になりました。当初毎回のように参加していた子どもたちも、今では子をもつ親になり、きっと子どもたちを膝に座らせ、絵本を読んであげていることでしょう。昔の子も今の子も、目をキラキラ輝かせ、素敵な笑顔で聞き入ってくれるのは同じです。そんな子どもたちがいる限り、活動を続けたいと思います。

そして、新しい読み聞かせグループが出来ることを切に願っています。

上士幌の未来を担う子どもたちは、昔も今も、やっぱり宝ものです。

お話しカッコウ代表 山下京子

子育てを楽しんで

私が上士幌に来てから来年で30年になります。3人の子どもに恵まれ（長女・次女・長男）、本当にアツという間でした。

10年前から、保育士の経験を活かし託児ボランティアをさせて頂いています。家中だけの生活から、子どもたちと楽しい楽しい時間を共有することができるようになりました。ママと別れる時に泣き出す子ども、それは当たり前、当然のことだと私は思っています。子どもにとって母親は一番大スキで、頼れる存在です。安心して泣かせてあげて下さい。ゆっくりゆっくり、お姉さん、お兄さんになっていけばいいのです。



私は、幼児期に思いきり甘えさせること、自己肯定感を育てるここと、余計な干渉はせずに、温かく見守り続けることが大切だと思います。言うのは簡単なことですが、なかなか難しいものです。でも、この事を頭の片隅に置いて、子育てを楽しんでほしいと、心から祈ってやみません。

民生委員主任児童委員 西田 瑠里子

※民生委員主任児童委員とは、民生委員法と児童福祉法により、国、道、上士幌町から委嘱され、子育て、不登校、いじめ、虐待など児童に関する相談を専門に担当している身近な相談員です。

かみしほろのホツとな話題

東日本大震災 被災地でのボランティア

上士幌町社会福祉協議会 事務局次長 河瀬 貴 氏

3月11日に発生した東日本大震災は、東北を中心に甚大な被害をもたらしました。私は今回、北海道社会福祉協議会の派遣制度で5月11日から17日まで、岩手県宮古市太老地区災害ボランティアセンターで業務を行いました。今回は、特に現地でのボランティアについて報告します。

災害ボランティアセンターは、被災住民から寄せられた要請・依頼を受け、その内容を確認し、何人のボランティアが必要で、どのような道具や量が必要か判断し、派遣する業務です。

依頼のほとんどは、がれきの処理や、津波の冠水による住宅内の片づけ、泥出しなど労力を必要とする内容でした。時期的に避難所から仮設住宅への引っ越しの手伝い依頼も出始めました。毎日、100人近いボランティアの方々が、その重労働に参加していました。

支援の中で印象に残っているのは、組織や官公庁、企業からのボランティアの存在です。

特に、労働組合の組織力には敬服しました。毎日、40~50人の方々に切れ間なく協力して頂き、心強い存在でした。また、環境省の新人研修として、7人ほどが9班に分かれて活動に参加。その確実な仕事ぶりは、公務員ならではのものでした。

金融業からは、ボランティアセンター運営に毎日 1

人~3人を派遣し、日常業務で得意としている電話対応やパソコン入力などを支援。食品会社からは、職員2人で200人分の食事をきはきと作り上げ、後片付けをし、ゴミの1つも残さず次へと移動していきました。

上士幌からだと、現地で活動に参加できる方は少ないと思います。しかし、現地で活動できなくても、被災された方々や支援するボランティアの方々をサポートすることは可能です。現在は、インターネットの普及で、今起こっていること、求められていることが直接伝わり、情報として入ってきます。被災地の県や市町村、社会福祉協議会や災害ボランティアセンター、NPO法人の情報を確認し、必要な物品をすぐに提供することも可能です。自分にできる支援を継続的に行いたいものです。がんばれ！東北!!



泥出しほるボランティア

上士幌の電気 ~糠平ダムの発電と電気量~

電源開発株式会社 (J-POWER) 上席課長 難波 陽一 氏

東日本大震災の発生により、首都圏では電気不足が問題となっています。そのような状況の中、本町の発電と電力量について紹介していただきます。

ぬかびら源泉郷での発電は、昭和31年の糠平ダムの完成と、糠平発電所の運転開始から始まっています。

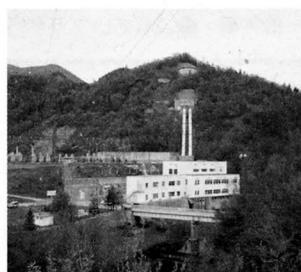
糠平ダムはコンクリート製で、長さ293m、高さ76mで、水の貯水量は約19億3900万リットル、これを上士幌小学校の大きいプールの水量に換算すると、約50万杯分になります。

一方、糠平発電所は無人で運転しており、函館にある制御所から無線で運転を管理し、またコンピューターで出力の調整を行っています。

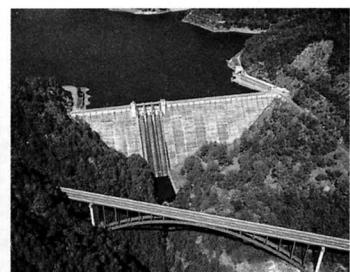
糠平ダムの水を用いた糠平発電所の発電量は、1年に1億750万kWH(キロワットアワー)です。この

電力量を分かりやすく説明すると、一般家庭の月平均の使用電力が300kWHなので、約29,900世帯が1年間で使う電気量とほぼ同じになります。この電気は、北海道電力の送電線と足寄発電所を通じて、主に道東方面に供給されています。

ダム、発電所とともに、安心安全の電力供給には細心の注意をはらっています。



糠平発電所



糠平ダム